

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800200		
法人名	有限会社 福音の家		
事業所名	グループホーム 福音の家		
所在地	空知郡南幌町元町4丁目3-14		
自己評価作成日	平成30年3月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800200-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&amp;JigyosyoCd=0175800200-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

人員体制が昼夜共に余裕のある配置をしています。利用者様の外出や通院など個別対応を可能としています。災害に対しても発電機や災害用品備蓄等万全の対策をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設より18年目を迎える事業所は、初代運営者が牧師であったことから、聖書の一説である「すべての人は、尊厳をもって敬愛され、平安で、しずかな一生を過ごす権利の有していることを認める」を基本理念とし、地域に根付いた生活を支援する介護理念を掲げています。  
1ユニットの事業所は2階建ての民家改造型で、玄関入口から居間、台所、居室に通じる廊下など全てが家庭的で温もりがあり、利用者が寛げる空間となっています。  
事業所の特徴として職員を基準よりも多く配置しているので、利用者一人ひとりの得意分野を見極め、マージャン、写真撮影、料理、畑作業など、日々のアクティビティを工夫し、能力に応じた自立支援に向けて質の高いチームアプローチを展開しています。  
喜びや達成感を得られる様な多彩なレクリエーションや外出行事も企画し、喜怒哀楽を感じる豊かなライフスタイルの提供にも取り組んでいます。更に毎日の楽しみの一つである食事では、調理師や栄養士の資格を持つ職員が、旬の食材を活かし彩り良く美味しい料理を提供しています。家族には毎月事業所便りと担当職員からの手紙を送付して暮らしぶりを報告し、年に1度はアンケートを実施して、意見や要望を汲み取り家族との信頼に繋げています。災害に対する意識も高く、発電機を始め、非常用備蓄品を確保しています。地域とも、冬季間、町内の除雪作業を事業所の重機を使用し協力する等、連携強化に努めながら、利用者が笑顔で暮らし続けるための支援に取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、介護理念ともにスタッフ全員で共有し、毎朝唱和しております。	キリスト教の教えを基本理念とし、地域で安心した暮らしを支える為の介護理念があります。職員は毎朝理念を唱和する事で、共有と意識付けを図り、実践に向けてのチームケアに活かしています。理念をパンフレットに記載し啓発に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や近隣学校の行事、中学生・高校生の職場体験の受け入れ、ボランティア活動の受け入れ、重機による除雪等の地域貢献、交流をしております。	事業所は利用者と共に地域の一員として、清掃、廃品回収、花壇の手入れ等、町内活動に参加しています。冬場は重機による近隣の除雪作業を行い地域貢献を行っています。中・高生の職場体験やボランティアの訪問、近所からのお裾分け等、日常的に地域と係わりを持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	内部・外部研修などで認知症を理解し、地域相談にのっております。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を実施しており、現状・活動報告・外部評価の結果等について話し合っております。	運営推進会議は定期的開催し、事業所の運営状況や利用者の状況、グループホーム連絡協議会の報告や避難訓練の報告について参加者と意見交換を行い、運営に反映しています。議事録は家族に配布しています。	家族に運営推進会議の意義を説明し、意見、苦情を表せる機会である事を伝え、多くの参加を得られるように働きかける事を期待します。また、議事録には議事や質疑応答の内容について詳細に記録する事を期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも出席していただき、利用者の方々や地域の情報を伝え助言をいただいております。	行政の担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の現状を伝え、情報の共有を図っています。案件が発生した場合は相談し解決に向けて協力関係を築いています。行政主催の研修に参加して情報交換に努めています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修とうで身体拘束について理解し身体拘束をしないケアをしております。	職員は外・内部研修で学び、ミーティングやカンファレンスで事例を挙げながら身体拘束の弊害について理解し、拘束の無いケアの実践に取り組んでいます。不適切な行為があった場合は、職員と話し合い、その要因を分析し防止に努めています。センサー使用時は家族に相談しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修とうで理解を深め、スタッフ全員で防止につとめております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修はおこなっておりますが、利用されている入居者様がないので活用できておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の施設見学、面談及び契約の際に十分な説明を行い理解されています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時やお手紙等での経過報告、相談対応、意見を伺っています。	事業所便りとスナップ写真と個別の様子を、毎月家族に送付しています。毎月の利用料支払いを直接持参してもらい、意見や要望を汲み取り運営に反映しています。毎年、家族アンケートを行っています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングでの意見交換の時間や必要に応じ機会を設けています。	毎月のミーティングにはホーム長や総合施設長も参加して、業務の見直しやケアサービスの提案等の意見交換を行い、運営に反映しています。日常的に職員間でコミュニケーションを図りながら連携を強めています。必要に応じて個人面談も行い、働きやすい環境作りに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や学習を受ける機会を作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修を受ける機会を作っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム連絡協議会への参加、意見交換をしています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家庭訪問や昼食のお誘いとうで入居前から繋がりを作るようにしています。入居後は安心感を持っていただくよう個別対応でスタッフや他者との関係づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時情報交換をしながら関係づくりを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居日や入居時間の調整、入居当日もご家族と食事を共にしたり、ご本人様が安心できる様子ご家族に見ていただくようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が得意とする分野についての助言やお手伝いをしてもらうなど、暮らしを共にする者同士良い関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必要に応じ家族との面談・電話・メールやご家族様との外出支援を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・縁者の訪問を招いたり、自宅への一時帰宅等の支援を行っています。	友人、知人を始め、教会の牧師や、マージャンのボランティアの訪問を受け、馴染みの関係となっています。自宅への帰省は職員が支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、相手の思いを伝えたり、関係構築の支援を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いや訪問、相談支援に努めています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の状況に応じた意向の把握に努めご家族の意向も含め、きめ細かい対応に努めています。	ほとんどの利用者は意思疎通が図ることができるため、日常会話からさりげなく聞き取りをしています。介護計画も本人に説明し確認しています。困難な場合は、顔色、表情、仕草、簡単な言葉遣いで理解に努め、利用者本位に検討し、職員間で情報を共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族からのお話や、アセスメントシートを活用し、より具体的な把握ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様、スタッフ間でも一緒に話し合いながら現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々の利用者様の心身の変化に応じた現状に即したケアプランを作成できるよう、スタッフ間で話し合い、ご家族の意向を含めて計画作成しています。	利用者の担当職員が中心となりモニタリングを行い、本人、家族の要望を聞き、カンファレンスで意見や情報を出し合い、最終的に介護支援専門員と検討し介護計画を作成しています。定期見直しは3か月とし、状況変化時は随時見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録の欄にケアプランに基づき実践したことを記入し、介護計画や変更の計画策定をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、訪問歯科等その時々生まれるニーズに対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、町内の行事参加支援		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望、ご本人様の体調を考慮し適切な医療を受けられるよう支援しています。	入居前からのかかりつけ医への受診を基本としていますが、ほとんどの利用者は協力医に移行し、月2回の往診を受けています。受診の場合は職員が対応していますが、家族のサポートを受ける場合も有ります。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院時や訪問看護の利用の際相談しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はスタッフも同行し、ご家族と連絡を取りながら病院との情報交換に努めています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた時の対応指針をご家族。かかりつけ医・スタッフで話し合いを持ち文書化で対応を明確にしています。	利用者、家族のニーズを汲み取り、重度化の対応指針を作成し、説明を行い同意書を得ています。状態変化時には、主治医、家族、職員間で話し合い、方針を共有してチームケアで支援しています。職員はターミナルケア研修で学び、看取りを経験しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急初期対応研修をおこなっています。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員に来ていただき訓練を行っています。	夜間想定避難訓練を年2回実施し、その内1回は消防署の指導を受けています。職員は救急初期対応研修を受けています。救急救命訓練は来年度予定しています。災害備蓄品に発電機、飲料水、食料、ポータブルトイレ、防寒具、ヘルメット等を準備し、非常口はロードヒーティングで雪対策を行っています。	避難訓練を重ねることに見いだされた課題を、年間を通じた訓練で繰り返し、解決していく事が大切です。火災に加え、地震や風水害、停電、断水等あらゆる災害を想定したシミュレーションや避難訓練の実施と、地域住民の具体的な協力体制への働きかけを期待します。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけやプライバシーに配慮して対応するよう努めています。	利用者の尊厳について理念に位置付け、全職員は意識を持ってケアサービスに取り組んでいます。利用者への接遇は、年長者としての敬いのある言葉かけや対応であり、個人情報の取り扱いにも注意を払っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望・意向を常に確認しケアプランに取り入れています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	極力希望に沿った支援ができるよう心がけています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室や床屋や買い物等ご本人様の希望に沿った身だしなみやおしゃれの支援をおこなっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食・出前・入居者様と作物を作り、収穫・食事作り等のお手伝いをさせていただいています。	栄養士1名と調理師3名の職員がメニューを作成し、バランスが良く、彩り豊かで味わいのある食事を提供しています。利用者も職員と一緒に腕を振るい得意料理を皆に振舞っています。誕生日や季節行事食には利用者の要望を取り入れ、利用者との食事作りは五感を刺激し、生活リハビリの場として活かされています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談しながらの食事作りや個々の状態にあった食事や水分摂取ができるよう努めています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケア、歯科往診や受診を受け口腔ケアに努めています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや週刊を把握しトイレでの排泄や自立支援に努めています。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、表情や動作等を見極めながら、尊厳に配慮した声掛けを行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。トイレは5カ所あります。衛生用品やポータブルトイレ等も利用者の状況に合わせて検討しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・乳製品や飲食物の工夫をし可能な限り薬剤に頼らない自然な排便ができるよう努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合った支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせて柔軟に対応し入浴を楽しめるよう努めています。	利用者の体調に配慮しながら、週2回を目安に入浴を支援しています。湯船に浸かるのが難しい場合は、二人介助でシャワー浴を行い衛生保持に努めています。入浴を拒む時は、職員が連携を取り、言葉かけやタイミングを工夫しています。町内の温泉入浴に出かけ、大きなお風呂を満喫しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の時間にあわせ休んでいただき、室温や湿度に気をつけて休んでいただいています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の一覧表を作成し服薬支援をおこなっています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	麻雀・五目並べ・買い物・テレビ・カラオケ等個々の嗜好や楽しみが行えるよう努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフと一緒に外出していただいています。行きたいところへ行けるよう支援しています。	利用者の状況を見ながら、日常の散歩や畑作業に加えて、近郊の市町村の観光施設に、季節を感じる外出を楽しんでいます。歩行困難なケースでも、車椅子対応車を配置して積極的に戸外に出かけ気分転換を図っています。写真が趣味の利用者は、常に視写体を探しに公園を散策する等、利用者本位の外出を支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スタッフと一緒に管理したり、能力にあわせてお金を所持し使えるよう支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話したり手紙のやり取りができるよう支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭や鉢植えの花で季節感を感じていただいたり、安心と居心地が良い空間を作れるよう努めています。	民家改造型の事業所で、玄関周りや居間、台所など家庭そのもので、温もりのある空間となっています。時計や壁掛け、絵画、人形等は歴史を感じる古い物が飾られていて、落ち着いた雰囲気です。皆が集うリビングから中庭が望め、ベランダからの陽射しが心地よく、それぞれが寛げる空間となっています。廊下にはプランターが並び、花が咲くのを利用者は楽しみにしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々のソファや食事の席を決めています、思い思いに好きなところで過ごせるよう支援しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用している物を出来るだけ持参していただけるよう支援しています。	利用者は使い慣れた家具など持ち込み、それぞれ、思い思いの飾りつけを楽しみ、自分らしい居室を作り上げています。持ち込みの少ない利用者には、事業所が家具等を整えて、安心して過ごせる様に配慮しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフの見守り、声掛けにて出来ることはご自分でしていただけるよう支援しています。			